



三菱UFJリサーチ&コンサルティング 研究主幹
中塚 伸幸

成長戦略のカギは「民間の挑戦」にあり

◆2040 年度までに累計 370 兆円超の官民投資

高市政権の成長戦略と来年度予算編成の基礎となる骨太の方針が閣議決定された。成長戦略については、17 分野にわたる 62 の「主要な製品・技術等」の官民投資ロードマップが示され、それらの合計投資額は 2040 年度までの累計で 370 兆円超という数字が示された。また、骨太方針では、「強い経済」を実現する「責任ある積極財政」を具体化するものとして、通常の歳出とは別に『「強く豊かな日本」投資枠』を創設し、複数年にわたる予算措置を講ずることなどが盛り込まれた。

◆成長戦略は緒についたばかり

さて、この成長戦略をどう評価するかであるが、まだスタート地点に立ったばかりで、今後の実行状況次第と言わざるを得ない。官民の投資額は 2040 年度までの 15 年間で累計 370 兆円超ということで、単純に平均すると 1 年あたり 25 兆円程度となる。直近 25 年度の GDP ベースの設備投資額は民間が 125 兆円、公共投資が 33 兆円、あわせて 158 兆円であるが、このうち「62 の製品・技術等」で現状どれだけの投資がされているかは不明なので、それとの比較はできない。

また、累計投資額 370 兆円の官と民の比率も明示はされていない。成長戦略が経済・財政へ与える影響の試算の中で「追加的な財政支出を毎年 10 兆円と想定した場合」との文言があり、仮にこれがひとつの目安であるとする、年平均 25 兆円の投資のうち官が 10 兆円、民間が 15 兆円となり、公的な投資が「呼び水」以上の規模になっている感もある。

◆デジタル、バイオなどの分野の投資額が大

62 の個別項目ごとにみると、金額が突出して大きいのは半導体（正確には「フィジカル・インテリジェント・システムの中核を担う半導体」）が 68 兆円、「クラウド・デ

ータセンター、蓄電池」が33兆円と、この両方で約100兆円、全体の27%を占める。このほか、「フィジカルAI」と「バーティカルAI（領域特化型AI）」をあわせて34兆円、「次世代ワイヤレス」が21兆円、「量子コンピューティング」が10兆円など、やはりデジタル・情報通信分野の投資額が大きい。合成生物学・バイオ、創薬・先端医療の2分野も、7つの製品・技術をあわせて77兆円と多額の投資が想定されている。

◆民間活力をいかに引き出すかがカギ

いずれにせよ、370兆円という数字は現時点でのひとつの想定と認識すべきであろう。進捗管理を徹底しつつ、状況に応じて修正することもあり得よう。重要なことは、成長を牽引するのは民間企業だということである。政府にはそれを促す環境の整備が求められている。政府が「目利き」となって主体的に特定の産業を牽引するのではなく、規制改革や投資促進のための税制支援等を行い、政府による投資はあくまで民間の「呼び水」ととどめるべきである。

たとえば、オール光ネットワーク、海底ケーブル、自動運転技術、防災技術といったインフラ整備に関わるものや、あるいは量子コンピューティング、フュージョンエネルギー、水素といった開発段階にあるものは、政府による投資への期待も大きい。一方、コンテンツ（ゲーム、アニメ、マンガ等）のようにすでに民間が競争力を有している分野では、知財権の保護や海外プロモーションといった側面支援が求められよう。

複数年の投資枠や機動的に財政対応をする仕組みを設けたことは評価できるが、それを濫用することなく、政府が果たすべき役割を明確にして、民間企業のアニマルスピリットの発揮を後押ししてくれることを、大いに期待したい。

～ 調査部発表の経済レポートはこちら ～
<https://www.murc.jp/library/economyresearch/>

本情報の無断複写複製（コピー）は、特定の場合（許可をとった公知の事実）を除き著作権者・当社の権利侵害になります。本レポートは情報提供を唯一の目的としており、何らかの金融商品の取引勧誘を目的としたものではありません。意見・予測等は資料作成時点での判断で、今後予告なしに変更されることがあります。【三菱UFJリサーチ&コンサルティング】